

夏休み特別企画

けんせつ小町 活躍現場見学会 2018

毎年、約400名もの参加者を迎えてきた恒例の「けんせつ小町活躍現場見学会」も今年で4回目。今回は開催件数も増加し、各地の土木・建築の現場で活躍するけんせつ小町の姿が披露された。女性が活躍する建設現場はもはや珍しくはない。しかし、その現状にじかに触れる機会はそう多くはないだろう。この貴重なイベントを更に意義あるものとするため、開催に携わった会員各社は全力を尽くしてきた。子どもたちの生き生きとした表情に満ちた見学会の様子とともに、その舞台裏をレポートする。



特集

心に残る見学

イベントの舞台裏



しっかり混ぜないと
かたまらないからね



「お仕事体験」ではモルタルを練り上げて手形をとった。初めての感触、匂い。眼差しが真剣だ。直接モルタルに触れないよう手袋を用意し、けんせつ小町も子どもたちに細心の注意を払っていた。

これが本当に
かたまるの？



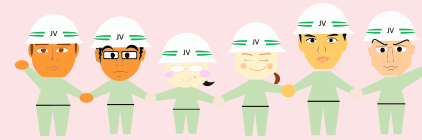
覚を思い返すように、かみ砕きながら説明を進めていく。説明が終わるといよいよ現場の見学。掘り返した地下に、建物を支える巨大なコンクリートの基礎杭が見える。参加者はそのコンクリート塊を見下ろしては、視線を周囲の建物に向け、うなずいている。「あの建物の下にもこの杭が

あるんだ」そんな気がきがあったのだろう。更に移動して掘ったところの土砂の崩れ込みを防ぐための鋼矢板を打ち込む施工の説明を受ける。間近でバックホウやクレーンを見るのは初めてだろう。建機の大きさに驚いているようだった。日差しはその勢いを増している。

こまめに水分を補給しているとはいえ、体調を気遣い、屋外での現場見学を三十分ほどで終え再び会議室に戻った。後半は「お仕事体験」だ。粉状のセメントに水を加え、慣れない手つきで混ぜ合わせる。これをアクリルケースに流し込み、手形をとる。その周囲を色鮮やかなタイルで飾った。力が弱

くてうまくモルタルに手形が写せない。外そうとしたら手袋だけがモルタルに残ってしまった。そこかしこでアクシデントが発生。嬌声が上がると。小さな手形は何ものにも代え難い思い出になったことだろう。

最後に阿部恵二所長がメッセージを送ってくれた。「この現場の竣工は再来年の二月です。今後、あの現場は今頃どうなっているんだろうかと思いがあつたら是非また見に来てください。建物ができあがっていく過程を追うことも勉強になると思います」。今日の見学会はこれで終わり。でも、日常的に現場に目を向け、建設に関心を持ち続けて欲しい。そんな気持ちしが所長の言葉に表れていた。



けんせつ小町が描いた職員の似顔絵が迎えしてくれた。(提供：株木建設株式会社)



現場では油断大敵！
見学会でもこまめに水分補給を！



いつもみんなが見てる
建物の下にも、こんな
大きなものがあるんだよ

体験を心に残す。

都営住宅建替工事

株木建設

集合住宅を再生する 現場を体験

八月三日に開催された見学会の会場は江東区南砂の建築現場だ。完成から半世紀近くを経た都営住宅を建て替える工事には、基礎杭が終わり掘削する工程に入っていた。午前十時前、土砂が掘り返され、基礎杭があらわになっていく現場の工事事務所に小学生七名とその保護者六名の見学者が続々と集まってきた。株木建設(株)の二名のけんせつ小町をはじめ職員が笑顔で出迎える。すでに日差しは強く、みんな汗だくだ。クーラーが効いた集合場所の会議室に入ると、ホッとした表情を見せた。

はなく女の子が活躍する場面がたくさんあります。今日はけんせつ小町のお姉さんと交流を深め、夏休みの楽しい思い出をたくさん作ってください」と挨拶。引き続き、けんせつ小町から工事概要の説明があった。どんな建物を作っているのか。どうやって建てるのか。手作りのパワーポイントをスクリーンに投影しながら説明する。親しみやすいイラストが目に見える。建物の大きさをプールに、高さをキリンに見立てた解説がユニークだ。「みなさんは建物がどうやってできていくのか知っていますか？」と入社三年目のけんせつ小町、古宮なつ美さんが語り掛ける。「それは私がこの仕事に就く前に一番不思議に思っていたことです」と自らが子どもだった頃の感



**建設業の魅力と
迫力を伝えたい**
建築部
加賀屋綾香

一番伝えなかったことは、建設現場が女性でも十分実力を発揮できる環境に進化していること。そしてこの仕事のやりがいです。竣工した時の達成感や建設業の大きさを知って欲しかった。見学会での説明はたどたどしかったかもしれませんが、少しでも感じていただければ嬉しいです。



**体感できる
見学会が理想**
建築部
古宮なつ美

小学校の先生になったようで本当に楽しかった。体を動かすアクティブなシーンがもっとあってもよかったかな。段ボールで実物大の鋼管杭のモデルを作って、その大きさを体感してもらおうとか。まだまだ工夫の余地はあると思います。また機会があれば是非トライしてみたいですね。



**社員にとっても
大きな刺激に**
建築部 所長
阿部恵二

なにしろ子どもを対象とした見学会は初めてのことで、試行錯誤で計画してきました。でも、開催させていただいてよかった。皆さん、楽しんでいただけたようで、1年後にまた現場の様子を見に来ていただきたいですね。何よりも当社の社員たちにとっても貴重な体験になったのではないのでしょうか。



**女性の可能性を
最大限引き出す**
副社長
山本雅生

建設業における女性のポテンシャルは非常に高いんです。例えば情報の伝達能力は男性を超えているかもしれない。すでに現場では女性の存在が欠かせないものになっています。昔と違って力仕事も少なくなりましたし、今後ともけんせつ小町たちが生き生きと働くことができる環境を整えていきます。



朝礼から打合せまで！
見学会当日も
午前中は通常業務



た」と明かすのは阿部所長だ。とは言うものの、その場で乾燥させて持ち帰ることはさすがに難しい。「手形をとった後、現場でいったん預かり、固まった後、ご自宅に宅配便でお送りすることにしました」。ワークキットは参加者へのお土産にしたと阿部所長は苦笑する。しかし、見学会から時間を置いて、改めて自宅に届く記念の手形。その包装を解く子どもたちの気持ちを思うと、結果的に更に深く心に刻まれるイベントになったのではないだろうか。

女性の活躍を本気で後押し
この現場は東京都から「女性活躍

モデル工事」に指定されている。女性専用の更衣室や水洗トイレの設置、広報活動にも注力するモデル現場だ。株木建設もプライベート環境の整備を進め、女性の活躍を本気で後押ししている。けんせつ小町たち自身も必要と思われるものを更衣室に持ち込み、気持ちよく仕事ができるよう心掛けているようだった。女性が現場で活躍する環境整備は飛躍的に進んでいる。見学会はそうした現状を広くアピールする恰好の機会になる。変わりゆく現場は参加者にも伝わったはずだ。参加者の笑顔はもろろけんせつ小町や現場スタッフの達成感が印象に残る見学会だった。



前日は午後から会場設営。本社からスタッフが駆け付け、所長も自ら装飾を手伝っていた。見学会当日は少し早めに現場に出勤。入場後はラジオ体操から朝礼、1日の工程確認と、通常業務を手際よくこなしていく。

確かに市販のキットは便利だが、あくまで「既製品」だ。「手形」は初めて建設業に触れた記憶とともに先々まで残る。オリジナリティは圧倒的だ。「でも、これが結構大変で。どうすれば固まりやすいのか。最適な配合など、セメントを扱う関連会社と検討し、実験を繰り返しまし

社を挙げて臨む、
初めての試み。



準備完了！
お待ちしております！

記憶に残る
見学会にした

見学会前日の午後、備品の確認配置、会場設営が始まった。午前中の通常業務を終えた後、本社からも総務や広報のスタッフが参集、現場総出で準備をする。

今回の見学会は猛暑に見舞われ、熱中症の懸念もあるため、屋内での説明とお仕事体験を中心に据えた。参加者にいかに楽しみながら学んでもらうか、建設業を少しでも知ってもらうこの機会を最大限に生かしたい。お仕事体験の工程をどうするか、本社と検討を重ねた。準備に駆け付けた丸山裕之総務部長はこう話す。「当初は市販されているワークキットでものづくりの面白さを伝える予定でした。しかし、社長、副社長からの提案もあり、より現場を実感でき、かつ記憶に残る方法はないかと。それで思い付いたのがモルタルの手形です」。



駅ってこんなふうに
できていくんだね



分かる人は
手を挙げてね

地下のプラットフォームの見学では地上からの資機材の搬出入方法や、トンネルの施工について説明を受けた。ここでも二択のクイズが出題され、子どもたちが競って挙手。

パーシテイ推進部の小山美月さんの司会で、工事概要の説明が始まる。J・V羽沢建築作業所のけんせつ小町、楡山祥子さんと宮崎萌さんが工事手順を解説。相鉄線から乗り換えなしで渋谷方面に直接行くことができる、その利便さを現状と比較しながら説明してくれた。「普段は絶対に入ることができない現場を、今日は見ることが出来ます。私たちもワクワクしています。」

「大人になった時」につながる見学会

す。楽しい見学会にしましょう」と笑顔で語り掛けた。

駅のコンコースでけんせつ小町が東京ドームとキャンプトントのイラストパネルを掲げクイズを始めた。「この駅の屋根の素材は何でできているでしょうか？」子どもたちが声を上げる。答えは東京ドームと同じ膜素材。こうしたクイズがポイントごとに出題され、子どもたちは自ら考えながら知識を得ていく。なるほど、一方的な説明より記憶として残りやすい。

その後、地下のプラットフォームへ向かう。躯体は完成しているが足場や資材が残っており、駅のホームとは思えない光景だ。それでも時間を追うごとに両側にレールが伸びている様子を見て、将来ここに電車が走るといことは理解できただろう。むしろ保護者の興味を引いたようで、施工方法などについて質問が寄せられた。再びコンコースに戻り「お仕事体験」の時間が始まる。佐野誠所

長が下地を設置し終えた壁面を指差し「この金具のところはタイルを張ってもらいます。みんなが張ってくれたタイルがこの先ずっと残ることになりますから上手に張って下さいね！」と呼び掛けた。子どもたちは職人さんが接着剤を塗布してくれたタイルを恐る恐る下地に引掛けるように張り付けていく。一人が張り終えるごとに拍手が上がる。その瞬間のホッとした笑顔が印象的だった。

手伝ってくれたタイル職人さんは「最近、子どもを対象とした現場見学会が増えています。我々が日常的に仕事としてしていることを、楽しそうにやってくれている様子が最初は不思議だったんですけどね」と笑いながら話す。建設現場が、施工の一挙一動が仮囲いの外から注目を集めつつあることを再認識しているようだった。

将来、子どもたちが大人になってこの駅を訪れた時、例外なくコンコースの壁に触れようとするだろう。その感触に何を思うのか、そんな想像に駆られる素敵なイベントになった。



地上の駅舎見学では鉄建設のキャラクター「てっくん」も登場。次々と写真撮影を求められ大人気だ。



タイルはこうやって張っていくんだよ



ちゃんとくっつくかな？
ドキドキするな



見学会は工事概要の説明からスタート。新線の開通でいかに便利になるか。日々の暮らしを支える鉄道というインフラの重要性を説明した。お仕事体験は、駅コンコース壁面のタイル張り。実際の「施工」に挑戦した。「タイルは駅が完成した後もずっと残ります」という所長の言葉に少し緊張。失敗しないよう慎重に張り付けていく。

コンクリートの
手触りと匂いを記憶に刻む

現在、横浜市内で相鉄線西谷駅とJR東海道貨物線の横浜羽沢駅付近に連絡線約二・七キロを新設し、両線の相互直通運転を目指す工事が行われている。八月二十一日に行われた見学会の現場はこのプロジェクトの要でもある羽沢駅（仮称）の新築現場だ。新駅はほぼ完成、内装や電気工事の工程に入っている。地下部では並行してプラットフォームやレールの敷設も進む。建築と土木、両分野の現場を見学できるお得な見学会だ。

J・R横浜駅からバスで二十分ほど、参加者が現場事務所に着いたのは午後二時。鉄建設(株)ダイ

未来につなげる。

相鉄・JR直通線
羽沢駅新築工事
鉄建設



けんせつ小町を目指す子どもを一人でも多く
JV羽沢建築作業所
宮崎 萌

タイルを張る子どもたちの笑顔が心に残っています。保護者の皆さんからもたくさんの質問をいただきました。建設業に興味をもってもらえたんだと、手ごたえを感じています。この見学会で一人でも多くの子が、「けんせつ小町になりたい!」と思ってくれれば嬉しいです。



自分を小学生に置き換えて
JV羽沢建築作業所
檜山 祥子

説明用資料は、自分が小学生だったらこの言葉は分かるかなと自問自答しながら何度も黙読。手直しは本番直前まで掛かりました。でも、予算や人員数のことまで質問があるとは想定していませんでした。子どもたちの興味の深さに驚きました。もっと勉強しておけばよかったかな(笑)



けんせつ小町の自信につながる
広報部
高橋 ふさ子

経験を積み重ねることで、こんな時「どうすればいい?」という戸惑いが、「こうすればいい!」という経験値に変わっていきます。それは建設現場で女性が自分らしく働くために必要なこと。今回の見学会で自信を付けたけんせつ小町たちが、完成に向けて現場をけん引してくれると思います。



工事中と完成後と比較して欲しい
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構新横浜鉄道電気建設所
中田 恵理香

参加されたお子さんからの「けんせつ小町になるにはどうしたらいいですか?」という質問が印象的でした。羽沢駅の工事に関わった者として、開業後にはぜひ羽沢駅を訪れて欲しいと思っています。その中で見学会を思い返したり、建設という仕事により一層の興味を持ってもらえたら嬉しいです。



体感できる見学会が理想
ダイバーシティ推進部長
野本 由美子

女性が活躍できる現場づくりは、ダイバーシティの第一歩とも言えます。女性が働きやすい職場は、誰にとっても快適なはず。そうした意味でも見学会は大変意義深いものだと思います。普段はなかなか会うことができないけんせつ小町たちが結束できる貴重な機会にもなりました。



とことん楽しんで欲しい
JV羽沢建築作業所 所長
佐野 誠

現場見学では、小さなお子さんが対象になるため、動線の段差など、場内の危険因子を排除することに腐心しました。しかし、開催するからにはとことん楽しんでもらおうと心掛けました。当日は、工事中による制約や、事前準備の時間不足による反省点もありますが、たくさん笑顔に出会え、ホッとしています。

は通常業務をこなしながら、説明会の設営や見学ルートの安全確認など、忙しそうに現場内で立ち働いている。本社からも女性社員が集い

発注者である(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構の中田恵理香さん、坂口明日美さんらの参加も得て、見学会はけんせつ小町総力戦の様相。

発注者、施工者の現場と本社のけんせつ小町が、その枠を超えて緊密に連携しながら開催される見学会は極めてまれだ。けんせつ小町の活躍を

積極的に伝えたいという気持ちの表れだろう。機構の二人は鉄道建設の専門家だ。この現場におけるそれぞれの分野の重要性を改めて丁寧に解説してくれた。

もちろん所長をはじめ男性社員も汗をかく。「てっくん」担当は準備段階で文字通り汗だくだった。

「けんせつ小町活躍現場見学会」は正味二時間ほどのイベントだが、舞台裏では事前準備にその何倍もの時間と労力を掛けている。「安全」と「分かりやすさ」を突き詰めながら、心に残り、未来につながる貴重なイベントとしてこれからも進化していく。



リハーサル
15:30



見学会スタートまで通常業務
当日
13:00



当日
14:30

本番まで2週間足らず。関係者全員でリハーサルを行った。机の配置、備品の確認に始まり、パワーポイントを用いた工事概要の説明も本番さながら。見学コースを実際にたどり、危険箇所がないか、慎重にチェックした。当日午前中はけんせつ小町たちが手分けして通常業務、会場の準備に当たる。「てっくん」も登場のタイミングをはかりながらスタンバイ。

受発注者の枠を超えて小町が連携

見学会当日も、けんせつ小町たち

見学会を約二週間後に控えたある日の午後、十数名の主要メンバーが現場に集合し、リハーサルが行われた。けんせつ小町をはじめとする現場社員はもちろん、本社の広報部スタッフから発注者の現場担当者まで一堂に会する。この日までに準備を進めてきた実施計画の最終確認だ。

当日の開催時刻と同様、リハーサルは午後二時にスタート。冒頭の挨拶、パワーポイントを使った工事概要の説明を台本に沿ってシミュレートする。解説のなかで使われる用語について意見が相次いだ。「土木」と「建築」の違いが理解できるか。そもそも「現場」という言葉がどのエリアを指しているのか伝わるだろうか。説明はもう少しゆっくり。子どもの目線に立ち、微に入り細に入り検討し、必要に応じてシナリオを修正する。相手は建設現場に、おそらく初めて足を踏み入れる子どもたちだ。分かりやすい言葉を使い、正確な情報を伝えたい。この現場のそんな思いが伝わってきた。

発注者とつくりあげる。



リハーサル
14:00



リハーサル
14:30

準備段階から発注者と施工者が一丸となって取り組む



リハーサル
15:00

子ども目線に立った見学会を

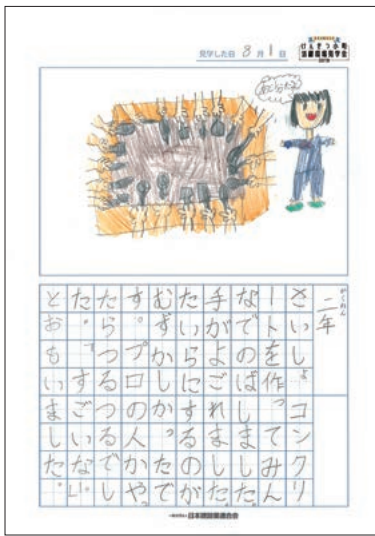


当日
18:00

無事終了!
おつかれさま!

夏休み特別企画
けんせつ小町
活躍現場見学会
2018
絵日記

今年の「けんせつ小町活躍現場見学会」も大盛況。各会場にご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。思い出に絵日記をお願いしたところ、80点もの力作が寄せられました。いただいた中から一部をご紹介します。この思い出がいつまでも皆さんの心に残りますように。また来年、けんせつ小町たちに会いに来てくださいね。



とたすむた手なさ二
おろずいよのとし
もつづからよのとし
いする口にこは作
まごつのかすれしゴ
しいる人るままでン
たなでかたのししみク
いしやでがたたん



阪急淡路高架工事
(鴻池組)



お土とこどてせ小
見ほ木かよ女つわ
てえ思おこの小た
みまけいこ知人町し
たしんまいかもるは
いたちしいりて見
てくたなきは学け
すまをあつるたしん



北中西・栄町地区
第一種市街地再開発事業に伴う
施設建築物新築工事
(西松建設)



町し設大方いのに天
に大にアはき人驚山
な興すかるとにさの
り私味働ま手大工
たもを体こくしき事
い建も験よかりた々
ア設ちしが町い車場
す小建のき男機と



東京外環中央JCT
北側ランプ工事
(鹿島建設)

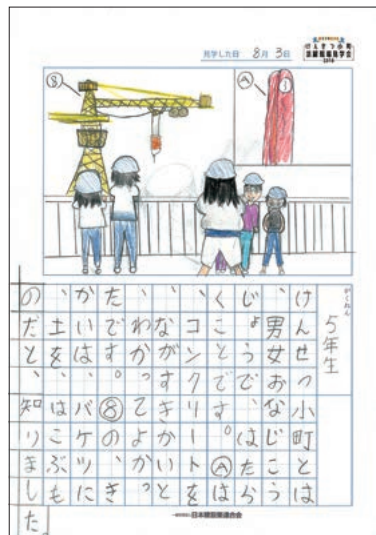
保護者の方より

声を掛けてくださり、詳しく説明していただいたので、工事の工程がよくわかりました。

保護者の方より

この度はけんせつ小町見学会に参加させていただきましたありがとうございます。

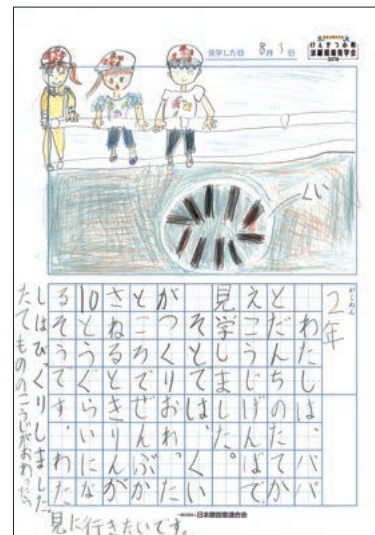
娘の夢は建築士です。現場で生き生きと働く女性の皆さんの姿に将来の自分を重ね合わせることができたのかなと思うとこのような機会は本当にありがたく思います。お忙しい中、準備や当日のご対応に感謝致します。



の「かた」くじけ
だ土いぞわなココ男
とをはまかガソウ女
知はバ乙チリす小
りこケのよかトはじ町
まぶツ、かイト左こと
しもにぎとをはかうは



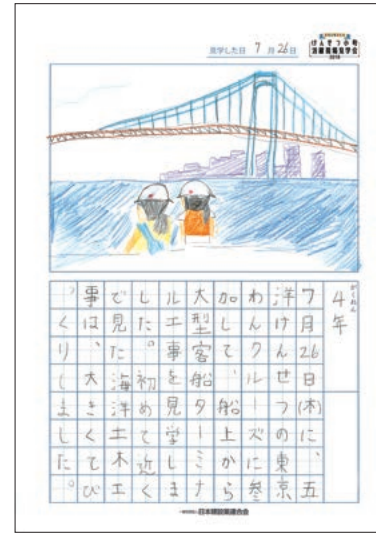
吾孺ポンプ所施設工事
(飛鳥建設)



たしる10さとが見えと
たはそとね三つを学こたわ
てはみうらうのくとしうんた
くてもくどでりてまじらし
すらすさおほしじのよ
しりいんねたんた
わにんぶくばてバ
たながかたいてかバ
見に行きたいです。



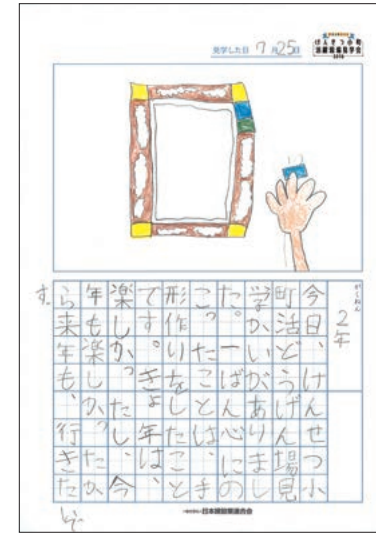
都営住宅建替工事
(株木建設)



一帯で七北大加わ洋7
くは見た工型しんけ月
し大海船を船ルせ日
よと洋め見夕船一つ休
もく土で学上次のに
たも木近しミかに東
び工くまから京五



東京湾クルーズ
(大型客船ターミナル・
東京臨港道路南北線建設工事)
(五洋建設)



心年楽で形った学町今
まもしす作の一日
七体およけ最は一学日
もし「きちこばがらけ
みたよしと人あげん
行し年たは心けんせ
ぎたはこにま場つ
たみ今と手のし見小
い



(仮称) 摂津市千里丘新町
A敷地計画建設工事(Ⅱ・Ⅲ工区)
(長谷工コーポレーション)



事い私もすたた場一四
をにもちたの「見今年
七体およけ最は一学日
たを姉やと物ゴ香に私
いはさつとほソ衆行は
て「人たてこトしき建
ぎたはこにま場つ
たみ今と手のし見小
い



読売テレビ新社屋建設計画
(竹中工務店)

保護者の方より

子ども達に伝わりやすい言葉でご説明していただき誠にありがとうございました。

「この暑さの中での仕事は大変そう…」ということが一番印象深かった様子ですが、将来の進路を明確にできる機会となったことだと思います。

保護者の方より

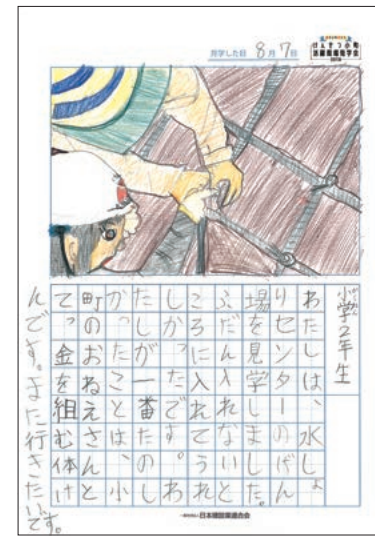
普段入ることのできない現場を見る事ができて、よかったです。子どもがレンガを張れて貴重な経験ができてありがとうございました。

保護者の方より

私共のお邪魔した現場では、基礎杭を見学させていただきました。娘の印象としては、地中に埋まる杭を想像するのは中々難しい様子でしたが、動物と比較してその深さを考えてみたり、作業服を着て従事されているけんせつ小町の皆様とお話出来た事が、楽しい思い出として残ったようです。

保護者の方より

地中に埋まっている杭が長くてびっくりしました。モルタルの手形をつくったり、とても楽しかったです。



広島高速5号線
シールドトンネル工事
(大林組)



旭労災病院新棟整備工事
(佐藤工業)



入江崎水処理センター改築
土木その10工事
(前田建設工業)



(修)臨海副都心出口基礎・
擁壁その他工事
(奥村組)



新東名高速道路 柳島高架橋工事
(オリエンタル白石)



保護者の方より

建設現場で働く女性の方達がとても生き生きとしていて、「けんせつ小町」の名前は知っていましたが実際にお会いするとやはりイメージが大きく変わりました。

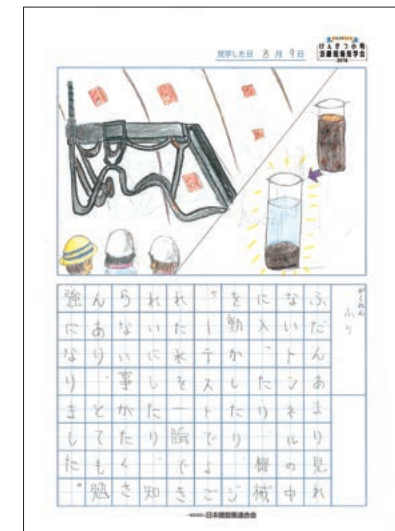
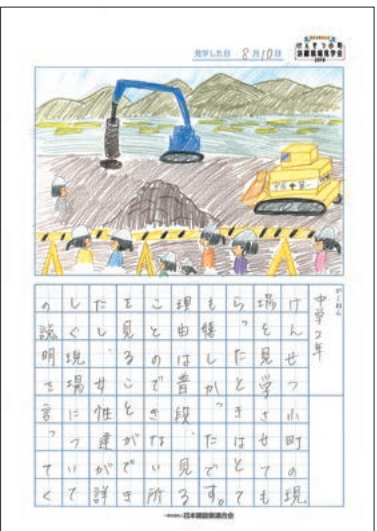
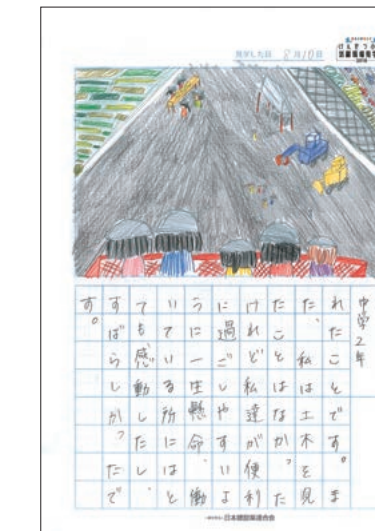
建設はインフラとしてとても大事ですが、それを支えている方達がしっかりとしていることが、これからの日本には大事だと改めて実感しました。また機会がありましたら孫と参加させて頂きたいと思えます。



江戸川区立葛西小学校・
葛西中学校改築工事
(フジタ)



相鉄・JR直通線、
羽沢駅新築他工事
(鉄建建設)



北陸新幹線、福井橋りょう工事
(東急建設)



新東名高速道路
谷ヶ山トンネル西工事
(三井住友建設)